会　議　録

1　会議名

平成 30 年度 第 2 回 上越市博物館協議会

2　議題

⑴　平成 30 年度事業実施状況について（公開）

・上越市立水族博物館

・上越市立歴史博物館

⑵　平成 31 年度事業計画（案）について（公開）

・上越市立水族博物館

・上越市立歴史博物館

3　開催日時

平成 31 年 3 月 8 日（金）午後 1 時 30 分から

4　開催場所

上越市立歴史博物館　講堂

5　傍聴人の数

なし

6　出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

ア　委員

川村知行、天野和孝、清沢聰、関谷伸一、久保田郁夫、大山賢一、飯川俊夫、上原みゆき

イ　事務局

・教育総務課　金子課長

・文化行政課　中西課長

・歴史博物館　宮崎館長、馬場副館長、花岡上席学芸員、荒川主任

・新水族博物館整備課　大瀧課長、力久主任

・水族博物館　櫻館長

7　発言の内容

⑴　平成 30 年度事業実施状況について（公開）

ア　上越市立水族博物館

【水族博物館資料　1～6 ページに基づき説明】

（川村委員長）これまでの年間入館券の発行枚数は何枚か。

（櫻館長）　約 30,000 枚である。

（大瀧課長）　旧施設での発行枚数は 2,000 枚弱であったことを考えると、10 倍以上となっており、いかに地元の方々に愛されていることがうかがえる。

イ　上越市立歴史博物館

【歴史博物館資料　1～6 ページ、歴史博物館アンケート集計資料に基づき説明】

（大山委員）　市内小学生に配布されたパンフレットは大変良くできている。このパンフレットは、3 年生担任など学校の先生方にお願いして作成したものか。

（宮崎館長）　学校の先生方から色々と意見はもらったが、パンフレットは当館で作成したものである。学校を完全に意識したもので、小学校 3 年生の社会科の教科書に準拠して作っている。小学校の先生方からは、博物館を見学する前の予習で使ったとか、見学後のまとめ授業の際に活用したと聞いている。今回のものは裏表めくりながら子供たちが使っていたので、今後はもう少し大きなサイズで使いやすい形に改善していきたい。

（大山委員）　人権・同和問題に関する研修はとても大事だと思う。例えば、こうした研修に参加した先生方がそれぞれの小・中学校に戻ってから、研修内容を他の職員に伝えて情報を共有したとか、学校内での研修に活かしているというような、研修後のことまで追いかけて把握されているか。

（宮崎館長）　学校向けの研修会は管理職および人権教育担当教諭を対象にしたもので、校内研修で活かしていただくことは想定しているものの、具体的な調査は行っていない。今後調査を行いたい。なお、博物館では、人権教育・同和教育に精通されている教員ＯＢの方に土・日に勤務いただいて展示室内の歴史の解説も含めて対応してもらっている。

（川村委員長）主催は学校教育課であったり、社会教育課であるが、研修会は教員だけでなく教育委員会の職員にも行っている。博物館や文化財審議会の委員にも研修に関する案内は届いている。追跡調査に関しては、これは教育委員会全体に関わる話である。歴史博物館の立場では、こうした研修の場で日頃の調査研究の成果を活かしているということか。100 人単位以上の研修でなかったら、歴史博物館で十分に研修できるし、施設を大いに活用してもらう提案もできる。資料の調査研究事業について、特別展のための調査は理解できるが、市内調査とあるのは何年計画の何年目というような中長期的な計画で行っているものか。

（花岡上席学芸員）資料に挙がっている市内調査先は個々の展覧会に関する調査である。中長期的

な計画で市内の悉皆調査をしていくことは今後の課題である。

⑵　平成 31 年度事業計画（案）について

ア　上越市立水族博物館

【水族博物館資料　7～10 ページに基づき説明】.

（関谷委員）　現在、展示している生物の種類数、点数はどうなっているか。また、旧施設はどうであったか。

（櫻館長）　現施設の展示生物は約 300 種 4,500 点である。一方、旧施設の展示生物は約 400 種 10,000 点であった。

（関谷委員）　展示生物のブランド化という説明があったが、具体的な計画はあるか。

（櫻館長）　現在、周辺海域において調査を進めているが、特徴的な生物も生息していることから、2～3 年をかけてブランド化を図って行きたいと考えている。

（関谷委員）　種名板の設置位置が高く、見えづらい。また、展示解説が少ない箇所もあるので、あわせて改善を図ってもらいたい。

（櫻館長）　それぞれ、改善に向けて検討を進めたい。特に解説については、施設の意匠やコンセプト等を踏まえつつ、充実を図りたい。

（関谷委員）　費用面の問題もあるだろうが、情報発信の一つとして、情報誌「うみがたり」を年間入館券購入者に送付することはできないか。

（櫻館長）　何ができるかを研究・検討していきたい。

（天野委員）　日本海をコンセプトしているが、魚種が少ないのではないか。例えば、深海魚を充実させるなど、計画はどうなっているのか。

（櫻館長）　深海魚については、これからの時期が漁期である。他の魚種についても、採集場所の調査や入手経路の開拓を進めており、今後、さらなる充実を図っていきたい。

（力久主任）　情報誌「うみがたり」の送付については、電子媒体が普及しているなか、電子メールで配信するのも一つの方法だと考える。また、展示魚種の充実については、水族館の飼育展示の安定化を図るためには一定の時間が必要であり、開館 1 年目は安定化を図るための知見を蓄積する期間でもある。2 年目は、蓄積した知見、採集場所の調査や入手経路の開拓結果をもとに、さらなる魚種の充実を図っていきたい。

（関谷委員）　レストランに多くの書籍が置いてあるが、水生生物に関するものがない。図鑑

など、水生生物に関する書籍を置き、利用者に活用してもらえるようにできないか。

（櫻館長）　サービス向上策の一つとして、検討を進めたい。

（関谷委員）　日本海大水槽、イルカプールからの景観に干渉していた電柱、電線の処理はどうなったか。

（大瀧課長）　日本海大水槽側については処理が完了しているが、イルカプール側については電気、電話、ケーブルテレビの配線があるため、対策を研究、検討中である。

（大山委員）　今後の中長期的な計画はどうなっているか。水族博物館に行った際、駐車場から玄関までのアプローチや案内表示の改善、マゼランペンギンミュージアム歩道の掃除、案内や解説の多言語化、ソーシャルメディアの活用、友の会設立、生物カードの配付、1 周年記念行事、地域との連携など、さまざまな気づきがあった。

（大瀧課長）　水族博物館の整備に当たり基本計画を作成しているが、基本計画では入館料を財源として定期的なリニューアルを実施することとしており、今後、リニューアルの具体的な内容の検討を進めていく。

（櫻館長）　いろいろな提案があったが、特に多言語化対応については、しっかりと取り組んでいきたいと考えている。ソーシャルメディアについては、現在、フェイスブック、ツイッター、インスタグラムの公式アカウントを設け情報を発信しているが、発信内容の充実に努めていきたい。友の会については、地元である直江津の商店街の方々を中心として相談を進めているところである。生物カードの配付については、新しい取り組みの一つとして検討したい。一周年記念については、入館者の方々にとって魅力的な企画を実施したいと考えている。地域の方々の連携については、常日頃からいろいろな場面で相談させていただいている状況である。

（上原委員）　バンドウイルカに対しては、多くの方々の想い入れがあると考えるが、昨年 7 月に死亡したバンドウイルカに対して、人間でいえば葬式にあたるようなことは行わないのか。また、生物の補充については、どのような体制になっているのか。

（櫻館長）　死亡したバンドウイルカについては、多くの方々に愛されていたことから、死亡の情報発信を行った。生物が死亡した際、葬式のようなことは行わないが、病理解剖を行い死因について調査する。死因を確認し、その後の飼育展示にい

かすことが飼育者の責務である。生物の補充については、指定管理者が役割を担っており、速やかな対応を基本としているが、補充に時間を要する場合もある。また、種類によっては、市との協議が必要な場合もある。

（久保田委員）県内唯一の水産高校である海洋高等学校の取り組みを紹介するコーナーの設置将来、水産系の大学への進学や水族館への就職を目指している生徒のインターン受入れを検討いただきたい。また、水族博物館の開館は強いインパクトを持つものであり、そのインパクトをさらに強め、地域の繁栄にも寄与していただきたい。

イ　上越市立歴史博物館

【歴史博物館資料　7～8 ページに基づき説明】

（大山委員）　今日、歴史博物館まで来るときに高田公園内の標示がいくつか目に入ったが「総合博物館」と標示されているものがあった。観桜会前には修正してもらいたい。標示の修正について博物館側から声を出していくことが大切ではないか。

（川村委員長）　上越市の最も弱いところだ。館だけの責任ではない。この協議会で出された要望を両館長を通して教育委員会なり市長部局へ届けてもらうしかない。

（宮崎館長）　ご指摘の標示については、附属小学校から附属中学校への通りに 1 箇所。春の葉が繁っている時期に見逃したところで、チェックミスである。その他の市内看板についても看板の修正にあわせて適宜直していきたい。

（大山委員）　展覧会のタイトル、キャッチコピーについて。例えば企画展Ⅰ「上越の寺社と徳川の城」というタイトルだが、ここに「徳川家康」と名前が出てくるだけで、行ってみようとか、眼を惹きつけるのではないか。

（川村委員長）展覧会としては「高田藩」に関するもの。中味で補足することは可能だろう。展覧会の企画は内部のみで検討したものか、それとも企画展の内容については外部の有識者を集めて検討しているのか。

（宮崎館長）　博物館だけでなく文化財を扱う文化行政課も含めながら検討しているが、内部のみである。

（川村委員長）この展覧会のイメージとしては、色々なモノが沢山あるという展覧会を期待されるかもしれないが。歴史の古文書を中心に並ぶのが現実的ではないか。

（清沢委員）　さきほどアンケートの集計結果について報告してもらい、詳しく知ることができた。大切なのは、こうしたアンケートをどう活かしていくか。次の企画展の内容として、言葉にすれば数行だが、アンケート結果が含まれているか、いな

いか。13 区の人か合併前上越市の人かは分からないが、アンケートにも「期待していったが、高田のことばかりだった」というようなことが書かれている。今後、こうした声をどう受け止めて返していくか。2 年目 3 年目が大切なことはその通りだが、しっかり返せないとデメリットのほうが大きくなるのではと危惧している。

（川村委員長）市域はみんな高田藩といえば高田藩だが、観覧者が展示を見て「高田の事しかない」と感じる人もいる。

（宮崎館長）　企画展Ｉの「上越の寺社と徳川の城」では、高田だけでなく直江津や柿崎の寺社も広く対象にしている。職員にも高田・直江津だけではなく広くという意識はあるので、絶えず意識していく。常設展示に関しては、展示ケースに展示する資料で工夫したり、データベースなど書き加えていけるものに各区の情報を年々増やしていくことなどで、アンケートの声に対応したい。

（川村委員長）　企画展Ｉでは、寺社が受け取った高田藩主から寄進状や道具類が展示されるだろう。寺社の寺社たる所以である美術工芸品などが沢山並ぶ展覧会ではない。しかし、とても大事な展覧会で地味だが意味のあるものだ。ただ展覧会のタイトルを見ただけでは、こうした内容をイメージする人は少ないだろう。是非、多彩な内容の展示になってほしい。

（宮崎館長）　展覧会の計画についても、5 年～10 年の中長期的な計画のなかで、それぞれの展覧会はどのようなジャンルでどんな内容の展覧会かということをお示しできるようにしたい。

（川村委員長）徳川の城というのは少し大げさだが、上越の寺社の「その１」「その２」という見通しがあるのであれば、とても良い展覧会になると思うので、是非検討してほしい。

（清沢委員）　市民の皆さんは歴史博物館にものすごく期待している。博物館良よくなったなぁという意見が圧倒的に多い。この次にどんな事をするのか、さらにその次に何をするのか、期待感の中で話をする方が多い。そこまできちっとしたものでなくても良いが、これからどんなことをしていくのかについての見通しを市民の方に知ってもらう工夫が大事ではないか。市民も博物館の展示室の空間がどの程度の広さかも知っているが、今後の情報を欲している方も多くいると思う。

（川村委員長）市民からの要望は、歴史博物館・水族博物館ともに期待を寄せているものである。それぞれの障害や問題点も含めて共有しながら、一緒になって考えていけ

る場は博物館協議会しかない。しかし、歴史博物館と水族博物館は予算規模が大きく違う。次元の異なる組織について共通した内容で議論をしようとすると一般論のものになってしまう。年に2回一般論を議論する協議会を開いてそれにどれだけの意味があるか。次年度以降の協議会のあり方自体を検討してほしい。この二つの博物館を協議する博物館協議会の設置条例の中身についても手を付ける時期に来ているのではないか。両館の専門的な部分を協議する専門委員会や運営に関わる運営委員会を別に設けることが必要ではないか。両館の館長、現場の学芸員が一番苦労している。市の体制がどれだけバックアップできるか。博物館の運営はとてつもなく難しいもの。今年度立ち上がった両博物館を5年10年の中長期的な計画の中で積み上げていく体制を是非実現してほしい。

（関谷委員）　両博物館の事業で調査研究ということが色々と書かれているが、両館で正規職員の学芸員は何人いるか。

（大瀧課長）　水族博物館側は、水族博物館に5名、新水族館整備課に1名で、あわせて学芸員は6名である。

（宮崎館長）　歴史博物館は2名である。

（関谷委員）　学芸員の力がとても大事。学芸員の研究や研修の場の確保、待遇改善など必要。大学を出ても募集がないなど学芸員のポストの問題もある。少なくとも研究旅費などの保障をしてほしい。

（川村委員長）教育委員会関係ではその他に学芸員はどのくらいいるのか。

（中西課長）　文化行政課には文化財係、歴史博物館・小林古径記念美術館・埋蔵文化財センターで非常勤もあわせて17名いる。

（川村委員長）十分な研究費もなく、十分な旅費もなく、とても研究職とは思えない仕事をしているのが学芸員の実際である。学芸員本人たちもそのうち自分が研究職ではないと思ってしまうのが問題である。皆で学芸員を育てていかなくてはいけない。

（天野副委員長）糸魚川市の博物館運営員会では、学芸員の業績とか仕事の計画とかが資料として出てくる。博物館は研究機関である。学芸員が何をやっているのか資料を出してもらわないと良く分からない。

（川村委員長）博物館は研究機関であるので、当然研究年報は出さなければいけない。研究紀要を出すとか年報を出すとか、学芸員は論文を書かなければいけない。昨年だったか、某大臣が「学芸員はガン」と発言したが、政治家の中には学芸員が「商

売け」をもたずに館の運営をうまくやっていない、研究ばかりしているという批判が政府の一部の意見としてある。しかし、私たちは学芸員に育ってもらいたいし、学芸員が育つことが地域の文化なり教育の水準を上げることになる。このことを地域の博物館ができなければ、どこでやるのかということ。

（宮崎館長）　先ほどの研究成果という点については、歴史博物館では研究した成果を図録や展覧会の内容でまとめるという形になっている。学芸員にはそれぞれの専門分野があり、将来の展覧会に向けての調査も行っている。さらには民俗資料や地域資料に関する調査などがあり、大きく調査研究の柱は 3 本あるが、日々の業務の中でどうウエイトのバランスを取るのか苦労している。ただ展覧会については新聞社などの持ち込み企画はなく、すべて自前で行っている。すべて学芸員が調査研究した成果を展覧会につなげている。

（川村委員長）学芸員は博物館の顔である。博物館のＨＰに学芸員がどんな研究活動をしているかということを紹介することができれば良い。本来は論文を書いて、年報を出すということだが、基本的な情報についてはＨＰで公開したらよい。市民やひろく全国まで知ってもらうきっかけになればよい。

（飯川委員）　歴史博物館のアンケート集計について、来館者の分布の項目で安塚や大島などは 0 パーセントだが、誰も来ていないということか。

（宮崎館長）　アンケートは来館者全員を対象にした悉皆のもではない。アンケートに記入して頂いた方での結果である。

（飯川委員）　合併前の各区も含めた人口統計からみれば、アンケートに記入した方だけであっても、高田・直江津から来館した人に比べると 13 区の来館者は少ないのではないか。自分の周りの人も歴史に興味がある人は少ない。歴史博物館については高田城に関することしか展示してないのではという声も聞く。実際の展示内容がそうではないことは良く承知しているが、地域住民のなかでの認知度が低いのも事実。もっと歴史博物館をＰＲすることが必要ではないか。アンケートのなかで「偉人」に関する展覧会を開催してほしいという意見があるが、上越は「偉人」と呼ばれる方は決して少なくない。上越近郊には個人名を冠した記念館は沢山あるが、どこも閑古鳥が鳴いている状況。そうした館とうまくタイアップした企画を考えてほしい。水族博物館も含めてだが、全国で比較したら決して規模の大きな博物館ではなく、むしろ小さな博物館。集客を高めるには「ここにしかないもの」を常に追い求めてほしい。具体化していくことは大変

なことだとは承知しているが、頑張って目指してほしい。水族館にお聞きしたいが、アンケートの地域別の割合について、オープン前の話では群馬県からの来館の話があったと思うが、実際はどうだったか。富山県への広報についても聞きたい。

（櫻館長）　群馬県からの来館者は全体の 3～4％の割合である。富山県については、これまで富山から集客するという発想がなかったため、ＰＲの基盤がなかった。新たしくなるにあたって、富山の新聞社やテレビ局に直接足を運んでＰＲを行った。その後に報道資料という形で各メディアに送った。

（飯川委員）　富山だけでなく、石川県も北陸新幹線でつながった。北陸方面では良い水族館があまりないので、大いにＰＲしてほしい。赤倉関係のスキー場とタイアップして水族館に誘客するバスを運行したり、「まちなか水槽」などの取組をしているが、その効果はどうだったか。

（櫻館長）　赤倉からのバスについては、1 月中旬から 2 月初旬までの毎週土曜日に実施したが、残念ながら水族館での降車はお一人だけで、その方も水族館には来館されなかった。妙高や赤倉の宿泊施設の方々とは連携を取っている。「まちなか水槽」については今年度も生物を変えて展示していきたいという話があるので水族博物館としても協力していきたい。

（大瀧課長）　赤倉からのシャトルバスについては、利用者が 0 名だったが、これは新潟県が行っている事業であり、新潟県への聞き取りでＰＲ不足だったという反省があったこと、運行ダイヤについても高田・春日山に寄って水族博物館にというもので、水族博物館中心のダイヤではなかった。赤倉に宿泊されている方のニーズを探って、利用しやすいダイヤを設定しないと利用客が伸びないなど、結果は全体的に不振だったと聞いている。

（川村委員長）今年は 2 つの博物館がオープンした年である。今回の博物館協議会はとても充実した議論であった。

8　問合せ先

上越市立歴史博物館　　TEL：025-524-3120

E-mail：museum@city.joetsu.lg.jp

9　その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。